

資料1 研究推進計画

年度	月	研究の流れ	研究内容	研究方法
昭和六十六年度	5	実態・意識調査	1 進路意識調査(生徒) 2 教師の意識調査	1 生徒対象アンケート 2 アンケート(研究内容の選定)
	6	主題・見通し研究構想	3 研究主題・内容の検討	3 協議・文献研究
昭和六十七年度	6	研究の焦点化・自己理解・目的意識	4 研究の見通し、方法、重点の検討	4 協議・理論研究
	7	研究計画書書	5 川崎研究(共通理解) 6 研究計画書の具体案作成 7 各部研究計画書作成 8 各学級研究の推進	5 資料検討・討議 6 資料文献・先進校研究協議 7 各部協議 8 各部の研究実施
昭和六十八年度	7	全体研究	9 生徒理解の内容と方法 ・全体計画検討開始	9-10 文献・資料研究協議による共通理解
	10	各部研究	10 自己理解の内容と方法	11-12 文献資料研究 各部研究・全体協議
昭和六十九年度	11	授業研究の実施	11 自己理解指導の進め方 12 自己理解学習指導の進め方 13 授業研究	13 授業による実践と協議 14-15 11-13と同じ方法(研究と授業実践)
	12	分析・計画改善	14 目的意識の内容と方法	16 資料研究・文献研究 17 資料研究・文献研究 18 資料研究・文献研究 情報資料コーナーの研究 19 授業による研究協議
昭和七十年度	1	問題点把握 新たな問題把握	15 12-13と同じ 16 保護者啓蒙のあり方 17 資料活用のあり方 18 相談の進め方 19 資料情報の保管整理活用 20 授業研究	21 実践と計画についての反省と協議 22 反省に基づくまとめの作成
	2	次年度研究内容 研究組織明確化	21 実践結果の反省と課題の把握(計画・実践等) 22 実践反省の中間まとめと次年度研究計画の検討	23 反省と新しい課題の提示 24 資料・文献の提示 理論研究確認
昭和七十一年度	3	共通理解深化	23 研究計画・組織再検討(共通理解)	25-27 研究の具体的な実践 自己理解・目的意識育成の授業実践 授業研究協議
	4	全体研究	24 基礎研究 生徒理解・自己理解・目的意識の育成 その他 25 実践と研究・授業研究 26 反省と問題点の把握	28 授業実践 アンケート・調査・作文・検査等
昭和七十二年度	5	授業研究(授業実施)	27 計画改善検討 28 指導計画による学習指導の継続 29 実践結果の検討 (研究計画の妥当性、生徒の要素把握)	30 反省や調査に基づくまとめ 計画や資料などの整備
	11	分析・反省 計画改善	30 研究全体の反省とまとめ 全体計画整備 (実年度以降の実践計画)	

1 研究主題に迫るための年次計画
昭和六十三年度

① 「自己理解を深めさせるための進路に関する生徒理解の方法は、どうあればよいか」——生徒理解の進め方の研究をし、自己理解を深めさせる手立てを
探る。

② 平成元年度

「自己理解を深め、目的意識を持つて進路の選択ができるようにさせるための指導は、どうあればよいか」——自己理解をさらに深めさせる目的意識を育成して、望ましい進路の選択がで

きるようにさせるために、指導計画の整備をし、継続的な指導を行う—

2 全体研究の内容

(1) 三年間を見通した進路計画の整備とそれに基づく継続的な学習への取り組みませ方の研究

(2) 自己理解を深めさせるための生徒理解

- ・ 生徒理解をもとにした指導の展開
- ・ 生徒理解を深めさせるための生徒理解
- ・ 自己理解を深めさせるための生徒理解
- ・ 進路指導全体計画等の整備
- ・ 生徒の進路学習への働きかけ

3 研究の方法

(1) 生徒・保護者・教師の意識調査により問題点を明らかにする。

(2) 進路指導計画の検討をする。

(3) 望ましい生徒像を描き、その育成をめざす指導を行う。

(4) 学期、月ごとの推進計画に基づき実践結果を分析して研究の方法を改善する。

(3) 学年の発達段階に応じた目的意識育成の研究

- ・ 進路発達段階に応じた課題追求
- ・ 目的意識育成をめざす授業の工夫
- ・ 年間学習指導案の作成とそれに基づく継続的な授業の実践

解の進め方の研究をし、自己理解を深めさせる手立てをさぐる。

ア、自己理解を深めさせるための生徒理解

イ、生徒理解の上に立った進路指導の実践

(2) 二年度……自己理解を深めさせながら、目的意識を育成し、望ましい進路の選択ができるようにするための指導計画を整備し、継続的な指導を行う。

ア、学年指導計画の検討と整備

イ、指導過程の改善及びそれに基づく継続指導

ウ、各学年の指導案の作成

各研究部の研究経過

各研究部の研究は、各学年二名程度から成る人員で構成し、全体研究との関連を保ちながら学級指導に役立つ研究を進めた。

(1) 指導計画部会

全体計画の検討改善、学年指導系統表の検討を中心に、具体的な指導ができるようにした。

(2) 進路学習部会

学習指導案や授業の進め方を中心に進路発達段階に応じた課題のあり方を研究した。

(3) 進路相談部会

進路相談の計画、実践を通して、生徒の自己理解や自己実現をめざす相談のあり方を研究した。

(4) 情報・調査部会

資料の収集、保存、活用の仕方や諸

五、研究の構想

年次ごとの具体的構想は、次のように立てた。

(1) 一年次……生徒理

一、進路意識調査(生徒)

二、教師の意識調査

三、研究主題・内容の検討

四、研究の見通し、方法、重点の検討

五、川崎研究(共通理解)

六、研究計画書の具体案作成

七、各部研究計画書作成

八、各学級研究の推進

九、生徒理解の内容と方法

・全体計画検討開始

十、自己理解の内容と方法

十一、自己理解指導の進め方

十二、自己理解学習指導の進め方

十三、授業研究

十四、目的意識の内容と方法

十五、12-13と同じ

十六、保護者啓蒙のあり方

十七、資料活用のあり方

十八、相談の進め方

十九、資料情報の保管整理活用

二十、授業研究

二十一、実践結果の反省と課題の把握(計画・実践等)

二十二、実践反省の中間まとめと次年度研究計画の検討

二十三、研究計画・組織再検討(共通理解)

二十四、基礎研究

生徒理解・自己理解・目的意識の育成

その他

二十五、実践と研究・授業研究

二十六、反省と問題点の把握

二十七、計画改善検討

二十八、指導計画による学習指導の継続

二十九、実践結果の検討

(研究計画の妥当性、生徒の要素把握)

三十、研究全体の反省とまとめ

全体計画整備

(実年度以降の実践計画)